

## 2022年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
36401	色彩と表現 Color and Express	小山田尚弘・ 山中マキ		専門	2	選択	1.2前期
<b>科目の概要</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>色の持つ物理的側面・心理的側面・デザインの側面を講義形式による理論の説明と共に、カラーカードを用いた演習形式による指導を行い、色彩の基礎を習得する。</li> <li>色彩を系統的に学ぶことにより、それぞれの目的によって客観的に色彩を使いこなせる実践能力を習得することを目的とする。</li> <li>講義を通し、色彩検定3級レベルの知識を習得することを目的とする。</li> <li>授業を通して、建学の精神・社会人基礎力・p i s a型学力を身に付け、更に潜在能力開発にも努めてほしい。</li> </ul>							
<b>学修内容</b>				<b>到達目標</b>			
① 色彩の本質を物理的な視点から理解し、客観的に色彩選択ができることを目的とする。 ② 色彩を感じ取る人間側について理解し、的確な色彩選択ができることを目的とする。 ③ 色彩を組み合わせた場合の効果について理解し、適材適所な色彩選択ができることを目的とする。 ④ 講義で学んだ内容を、カラーカードを用いて自ら表現できるようにすることを目的とする。 ⑤ 市場に流通している商品の色彩分析の仕方を理解する。				① 色彩の本質を物理的な視点から理解することができ、客観的な色彩選択ができる。 ② 色彩を感じ取る人間側について理解することができ、的確な色彩選択ができる。 ③ 色彩のデザインの側面を理解することができ、適材適所な色彩選択ができる。 ④ 自らカラーカードを使用し、講義で理解した内容を色で表現することができる。 ⑤ 市販されている商品の色彩分析をし、なぜその色が用いているのかを考察することができる。			
<b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>		<b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>					
前に踏み出す力	主体性	単にテキストを丸暗記するだけでなく、学んだことを実社会に応用できるよう常に意識をすることができる。					
	働きかけ力	理解できない内容があった場合、それを質問することができる。					
	実行力	期限までに提出課題を仕上げる為に、目標を決め最後までやりきることができる。					
考え抜く力	課題発見力	生活の中で出会う様々な色彩を常に意識し、疑問や課題を持ちながら授業に臨むことができる。					
	計画力	提出期限の期日を守り計画的に制作することができる。					
	創造力	学んだ基礎知識を提出課題や作品に応用し、自ら考えて創造することができる。					
チームで働く力	発信力	提出課題や作品では、求められている色彩表現を誰もが分かりやすく客観的に行うことができる。					
	傾聴力	グループワークで人の意見を確認し、さらに自分の意見を述べるすることができる。					
	柔軟性	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキスト通りではない事例に出会った際、別の側面から考察することができる。</li> <li>自分と他者の作った配色の違いを通して、自他共に感性や考えの違い等を受け入れることができる。</li> </ul>					
	状況把握力	自分が行ったことで周囲にどんな影響を及ぼすのか考え、最良の結果がだせるよう取り組むことができる。					
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力	思い通りにいかずイライラしたり落ち込んだりしても、長くひきずることなく次へ進むことができる。					
<b>テキスト及び参考文献</b>							
■色彩検定公式テキスト3級編（内閣府認定公益社団法人色彩検定協会：ISBN978-4-909928-03-0）2,420円（税込） ■新配色カード199a（日本色研事業）935円（税込） ※他に工作用のハサミとノリを持参							
<b>他科目との関連、資格との関連</b>							
（他の科目との関連）色彩はあらゆる分野と関連のある重要な要素の為、他科目に応用が可能 （資格との関連）『色彩検定（3級）』『色彩検定（UC級）』『パーソナルカラー検定』対応							
<b>学修上の助言</b>				<b>受講生とのルール</b>			
講義内では記入用のプリントを配布するが、講義後は必ずテキストの該当ページを熟読し、理解を深めること。				<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席者には当日使用したプリントを翌週渡し、さらに翌々週の授業後に小テストを行うこととする。</li> <li>やむを得ない理由があり課題提出が遅れると分かっている場合は事前に申し出ること。</li> <li>社会人基礎力を自ら積極的に付けようとする姿勢で臨むこと。</li> </ul>			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト		50	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学習した内容の理解度を確かめる目的で行う</li> <li>・授業の冒頭、約5～10分以内で行う</li> <li>・全10回実施。1回につき5問程度。1問1点とする。</li> <li>・前回の学習内容（テキスト、配布プリント、色彩検定の過去問題など）などから出題</li> <li>・当日欠席した場合、翌週に該当プリントを配布、翌々週の授業後に小テストを行う</li> </ul>	
					②	✓		
					③	✓		
					④			
					⑤			
		レポート		30		①		<ul style="list-style-type: none"> <li>・期間内で3回提出課題あり。各10点の計30点とする</li> <li>・未提出の場合は1課題につきマイナス10点とする</li> <li>・与えられた条件に合う色を自ら選択することができるか、また、単にカードを選んで貼るだけでなく、見た目に美しく、丁寧に貼れているかも評価対象とする</li> </ul> <p>■課題①「対比」 ■課題②「色彩調和」 ■課題③「イメージ配色」</p>
						②		
						③		
						④	✓	
						⑤		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		10		①		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習してきた内容を用い、市販されている商品パッケージの色彩分析を行う。</li> </ul> <p>①使用されている色を面積比で抽出する ②受ける印象をイメージマップにプロットする ③使用されている技法とその効果を分析及び考察する ④その商品のターゲットを推測する ⑤A4のプレゼンテーションシートにまとめる。 ⑥色彩知識を修得し実生活に活用する。</p> <p>以上①～⑥の工程を達成度に応じて評価する</p>		
				②				
				③				
				④				
				⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10		①	✓	<p>【生物】 ネットを把握するだけでなく、学んだことを実社会に活用できるような課題を設定する。</p> <p>【倫理】 授業中や授業後、疑問や不安を抱いた場合、質問することができる。</p> <p>【実行力】 授業中に提出課題を仕上げる為、目標を定め最後までやり遂げることができる。</p> <p>【観察力】 色抽出や抽出された色を客観的に観察し、疑問や課題を持ちながら授業に参加することができる。</p> <p>【計画力】 提出課題は目標に沿って、計画を立てて実行することができる。</p> <p>【学習力】 基礎知識を授業課題や作品に活用し、自ら考えたり創造することができる。</p> <p>【表現力】 抽出された色で表現されている色彩表現を、誰かが分かりやすく説明できるようにできる。</p> <p>【批判力】 ターゲットで、人の意見を聴き、さらに自分の意見を述べることができる。</p> <p>【柔軟性】 予想外や思いがけない事例に出会った際、なぜその配色にしたのかを他の観点から考察し、自分と異なる視点での配色の意図を述べ、他者に理解や考えの違い等を説明することができる。</p> <p>【問題解決力】 色抽出のことで課題にどんな影響を及ぼすかを考え、最終の結果が分かるよう計画を立てることができる。</p> <p>【評価力】 他人の発表を聞き、授業が問題に進行するようにルールを守ることができる。【対話】 ネットワークの活用により、思いがけないアイデアが生まれたりも、長く居ることもなく、盛り上がることもある。</p>		
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>■ S (秀) の基準</p> <p>①小テスト：色が見える仕組みを完全に理解し、理論的に説明することができる（正解率9割以上）。</p> <p>②配色：与えられた条件に合う色をカラーカードから選択し、美しく貼ることができる。</p> <p>③色彩分析：これまで学習してきた内容を用い、色彩を客観的に分析および考察することができる。 （・色の抽出・面積比・イメージマップへのプロット・配色技法とその効果・ターゲットの推測が全てが完成されている。さらにそれをテキストの記述を応用した自分の言葉で分かりやすく説明することができる。）</p> <p>■ A (優) の基準</p> <p>①小テスト：色が見える仕組みをほぼ理解し、説明することができる（正解率8割以上）。</p> <p>②配色：与えられた条件に合う色をカラーカードから選択し、丁寧に貼ることができる。</p> <p>③色彩分析：これまで学習してきた内容を用い、色彩を分析および考察することができる。 （・色の抽出・面積比・イメージマップへのプロット・配色技法とその効果・ターゲットの推測が、おおむね完成されている。さらにそれをテキストにある言葉を用い説明することができる。）</p>	<p>■ B (良) の基準：</p> <p>①小テスト：色が見える仕組みをだいたい理解し、答えを選択肢の中から選ぶことができる（正解率7割以上）。</p> <p>②配色：与えられた条件に合う色をカラーカードから選択し、確認して貼ることができる。</p> <p>③色彩分析：これまで学習してきた内容を用い、色彩を分析および考察することができる。 （・色の抽出・面積比・イメージマップへのプロット・配色技法とその効果・ターゲットの推測のうち、空欄の箇所が無いこと。）</p> <p>■ C (可) の基準：</p> <p>①小テスト：色が見える仕組みを理解しようと努力していること。（正解率6割以上）。</p> <p>②配色：与えられた条件に合う色をカラーカードから選択し、貼ることができる。</p> <p>③色彩分析：これまで学習してきた内容を用い、色彩を分析および考察することができる。 （・色の抽出・面積比・イメージマップへのプロット・配色技法とその効果・ターゲットの推測のうち、7割以上は埋めてあること。）</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	<b>■ガイダンス</b> ・色彩検定について ・色彩を学ぶ意義 <b>■色が見える仕組み①</b> ・色知覚の三要素のうち、『光』『物体』の性質について学ぶ。	<b>■講義</b> ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する。 <b>■実験</b> ：回折格子を用い、白色光を分光してスペクトルを確認する。	・色知覚の三要素のうち、『光』と『物体』の性質について理解できる	テキストp6～18を熟読し、理解を深める	90	主体性 働きかけ力 課題発見力 規律性
2	<b>■色が見える仕組み②</b> ・色知覚の三要素のうち、『視覚』について学ぶ。 ・『照明』の種類と色の見え方について学ぶ。	<b>■講義</b> ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する。 <b>■実験</b> ：盲点の実験を通し、脳が視覚に及ぼす影響について理解する。 ※小テスト(1)あり (第1回目の学修内容『光』『物体』より出題) ⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。	・色知覚の三要素のうち、人間の『視覚』について理解できる ・照明の違いによって物体の見え方が変化するメカニズムを理解できる。	テキストp19～23を熟読し、理解を深める	90	主体性 働きかけ力 課題発見力 規律性
3	<b>■色が見える仕組み③</b> ・『混色』の種類とメカニズムを理解する。	<b>■講義</b> ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する。 <b>■デモンストレーション</b> ：三原色を用いた同時加法混色、簡易顕微鏡を用いた併置加法混色、回転コマを用いた雑時加法混色、カラーフィルムを用いた減法混色のデモンストレーションを行い、混色を実際に確認する。 ※小テスト(2)あり (第2回目の学修内容『視覚』『照明』より出題) ⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。	・混色の原理と実際の活用方法について理解できる	テキストp24～30を熟読し、理解を深める	90	主体性 働きかけ力 課題発見力 規律性
4	<b>■色の表し方①</b> ・『慣用色名』について学ぶ。 ・『表色系(三属性)』について理解する。	<b>■講義</b> ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する。 <b>■実習</b> ：カラーカードを使用し、三属性(色相、明度、彩度)について理解を深める。 ※小テスト(3)あり (第3回目の学修内容『混色』より出題) ⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。	・色の伝え方には様々な方法があることを知り、それぞれのメリット・デメリットまで考えることができる。	テキストp128～139、p32～38を熟読し、理解を深める	90	主体性 働きかけ力 課題発見力 創造力 発信力 規律性
5	<b>■色の表し方②</b> ・『PCCS(日本色研配色体系)』について学ぶ	<b>■講義</b> ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する。 <b>■実習</b> ：カラーカードを使用し、PCCS色相環、PCCSトーン図を作成 ※小テスト(4)あり (第4回目の学修内容『慣用色名』『表色系(三属性)』より出題) ⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。	PCCSの概要、色相、トーンを理解できる	テキストp39～48を熟読し、理解を深める	90	主体性 働きかけ力 実行力 計画力 発信力 規律性 ストレスコントロール力
6	<b>■色の心理効果</b> ・『寒・暖/進出・後退/膨張・収縮/硬・軟/軽・重/興奮・鎮静/派手・地味』 ・『色の連想と象徴』	<b>■講義</b> ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する。 <b>■パワーポイントの画像による事例紹介</b> および解説 ※小テスト(5)あり (第5回目の学修内容『PCCS』より出題) ⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。	・色の持つ心理的な効果を理解できる	テキストp50～57の該当箇所を熟読し、理解を深める	90	主体性 働きかけ力 課題発見力 柔軟性 ストレスコントロール力
7	<b>■色の視覚効果①</b> ・『補色残像、対比、同化、面積効果、主観色』 人間の知覚特性を理解し、それによって引き起こされる現象を知る	<b>■講義</b> ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する。 <b>■実習</b> ：カラーカードを使用し対比のパターンを自ら作成する ※小テスト(6)あり (第6回目の学修内容『色の心理効果』より出題) ⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。	・補色残像、対比、同化、面積効果、主観色について理解できる	テキストp58～68を熟読し、理解を深める ※提出課題(1回目)あり プリント『対比』：授業内で完成できなかった場合、宿題とする	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 規律性
8	<b>■色の視覚効果②</b> ・『色の機能的効果』 ・『カラーユニバーサルデザイン』 見やすい配色、目立つ配色などを知り、多様な色覚特性にも対応できる配色を知る	<b>■パワーポイントを用いて、色覚特性や解決法など事例を紹介・解説</b> <b>■グループワーク</b> ：自分の見つけてきた「見やすい配色」「見にくい配色」をグループ内で発表。さらに、見にくい色の理由を考え、グループ内で意見交換を行う ※小テスト(7)あり (第7回目の学修内容『補色残像、対比、同化、面積効果、主観色』より出題) ⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。	多様な色覚特性を理解することができ、多くの人にとって“分かりやすい”色彩設計とは何かを理解できる	自分の身の回りにある配色で「見やすい配色」「見にくい配色」をそれぞれ探してくる	90	主体性 働きかけ力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	<p>■色彩調和①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『4つの原理』</li> <li>『色相を手がかりにした配色』</li> <li>『トーンを手がかりにした配色』</li> </ul> <p>色を組み合わせることで生まれる美しさの法則と各々の印象を学ぶ</p>	<p>■講義：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する</p> <p>■実習：カラーカードを使用し、条件に沿って自ら配色を作る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>色彩調和の基本型を学ぶことで、歴史的にどのような配色が美しいとされてきたのかを客観的に理解できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストp70～91トの該当箇所を熟読し、理解を深める</li> <li>授業内で完成できなかった演習問題を宿題とする</li> </ul>	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性</li> <li>働きかけ力</li> <li>実行力</li> <li>課題発見力</li> <li>計画力</li> <li>創造力</li> <li>発信力</li> <li>柔軟性</li> <li>規律性</li> </ul>
10	<p>■色彩調和②</p> <p>色を組み合わせる際、面積比や挿入場所を考慮することにより生まれる効果や印象について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『アクセントカラー』</li> <li>『セパレーション』</li> <li>『グラデーション』</li> <li>『ファッションと色彩』</li> </ul> <p>配色技法がファッションにおいてどのように活用されているのかを学ぶ</p>	<p>■講義：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する</p> <p>■実習：カラーカードを使用し、条件に沿って自ら配色を作る</p> <p>※小テスト(8)あり (9回目の学修内容『色相を手がかりにした配色』、『トーンを手がかりにした配色』より出題) ⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な配色技法を学び、目的に合った色彩を選ぶことができる</li> <li>ファッションにおいてどのように色彩が活用されているかを理解できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストp92～102、p110～116を熟読し、理解を深める</li> <li>授業内で完成できなかった演習問題を宿題とする</li> </ul> <p>※提出課題(2回目)あり：『色彩調和』 ⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。</p>	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性</li> <li>働きかけ力</li> <li>実行力</li> <li>課題発見力</li> <li>計画力</li> <li>創造力</li> <li>発信力</li> <li>柔軟性</li> <li>規律性</li> <li>ストレスコントロール力</li> </ul>
11	<p>■パーソナルカラー(似合う色)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『4シーズン分類とその応用』</li> </ul> <p>パーソナルカラーの考え方、色の分類の仕方を学ぶ</p>	<p>■パワーポイントを用いた解説と実例紹介</p> <p>■実習：カラーカードを使用し、条件に沿って自ら配色を作る</p> <p>※小テスト(9)あり (10回目の学修内容『アクセントカラー』、『セパレーション』、『グラデーション』、『ファッションと色彩』より出題) ⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パーソナルカラーの理論を理解し、色を分類することができる</li> <li>その理論を生活の中での様々なデザインに応用することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内で完成できなかった演習問題を宿題とする</li> </ul>	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性</li> <li>働きかけ力</li> <li>課題発見力</li> <li>創造力</li> <li>発信力</li> <li>状況把握力</li> <li>規律性</li> </ul>
12	<p>■『配色イメージ』</p> <p>配色から受けるイメージを、色の三属性やトーンから考える</p>	<p>■講義：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する</p> <p>■実習：カラーカードを使用し、条件に沿って自ら配色を作る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>色の三属性やトーンをどのように変化させると、どのようなイメージになるのかを理解できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストp104～107を熟読し、理解を深める</li> <li>授業内で完成できなかった演習問題を宿題とする</li> </ul>	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性</li> <li>働きかけ力</li> <li>課題発見力</li> <li>創造力</li> <li>発信力</li> <li>柔軟性</li> <li>規律性</li> </ul>
13	<p>■『インテリアと色彩』</p>	<p>■講義：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する</p> <p>■パワーポイントを用いた実例紹介と解説</p> <p>■実習：カラーカードを使用し、条件に沿って自ら配色を作る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インテリアにおいてどのように色彩が活用されているかを理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストp118～125を熟読し、理解を深める</li> <li>授業内で完成できなかった演習問題を宿題とする</li> </ul> <p>※提出課題(3回目)あり：『インテリアのイメージ配色』 ⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。</p>	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性</li> <li>働きかけ力</li> <li>実行力</li> <li>課題発見力</li> <li>計画力</li> <li>創造力</li> <li>発信力</li> <li>柔軟性</li> <li>状況把握力</li> <li>ストレスコントロール力</li> </ul>
14	<p>■『パッケージの色彩分析実習』</p> <p>市販されている商品パッケージの色彩分析を通し、色が人間に与えるイメージや効果を知る</p>	<p>■自ら選んだ商品パッケージの色彩分析を行う</p> <p>「使用色の抽出と面積比」「イメージ調査」「配色技法とその効果を考察」「ターゲットの推測」</p> <p>※小テスト(10)あり (12,13回目の学修内容『色の三属性と配色イメージ』、『インテリアと色彩』より出題) ⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市販されている商品パッケージの色彩分析を通し、デザインの意図を推測することができる</li> </ul>	<p>※分析シートは提出課題とする</p> <p>⇒回収後、採点して次週返却および解説を行う。</p>	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性</li> <li>働きかけ力</li> <li>実行力</li> <li>課題発見力</li> <li>計画力</li> <li>創造力</li> <li>発信力</li> <li>傾聴力</li> <li>柔軟性</li> <li>状況把握力</li> <li>規律性</li> <li>ストレスコントロール力</li> </ul>
15	<p>■『色彩検定3級模擬試験』</p>	<p>模擬試験(45分)と解答・解説(45分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>模擬試験と通し、検定試験のイメージや時間配分をつかむことができる</li> <li>これまで学習してきた内容の総まとめとして模擬試験を活用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間違えた箇所は理解できるまで復習すること</li> </ul>	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性</li> <li>働きかけ力</li> <li>実行力</li> <li>課題発見力</li> <li>計画力</li> <li>規律性</li> <li>ストレスコントロール力</li> </ul>

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力